

## 有機フッ素化合物が検出された地下水の継続調査について（令和 7 年度）

### 1 継続調査結果

令和 2 年度以降における調査結果については下表のとおり（指針値 50ng/l）。

(ng/L)

地点	PFOS	PFOA	合計※ <sup>2</sup>
令和 2 年度（環境省調査※ <sup>1</sup> ）	120	670	790
令和 3 年度	43	97	140
令和 4 年度	25	54	79
令和 5 年度（R5. 6 採水）	12	92	100
令和 5 年度（R5. 11 採水）	21	55	76
令和 6 年度（R6. 6 採水）	16	50	66
令和 6 年度（R6. 11 採水）	12	43	55
令和 7 年度（R7. 6 採水）	9	61	70
令和 7 年度（R7. 11 採水）	19	75	94

※ 1：全国存在状況把握調査

※ 2：調査結果は有効桁数 2 桁で処理した値を掲載しているため、「PFOS+PFOA」の値は必ずしも「PFOS」及び「PFOA」の結果の合算値とは一致しない。

### 【参考】

#### 1 継続調査地点選定の経緯

○平成 26 年 3 月：有機フッ素化合物のうちペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びその塩、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）及びその塩が、公共用水域の要調査項目として設定

○令和元・2 年度：環境省が全国存在状況把握調査を実施。令和 2 年度の調査地点である当該地点において、指針値（暫定）（50ng/l）の超過が判明  
「PFOS 及び PFOA に関する対応の手引き」（R2 年 6 月環境省水・大気環境局）に基づき濃度の経年的な推移把握のため、継続調査を実施することとした

#### 2 全国存在状況把握調査結果【環境省実施】

（1）実施年度：令和元年度及び令和 2 年度

（2）調査地点：排出源となり得る施設付近の公共用水域及び地下水 各 1 地点

（3）結 果：(ng/L)

	令和 2 年度				令和元年度			
	地点	PFOS	PFOA	合計	地点	PFOS	PFOA	合計
河川	砂押川(多賀城市)	1.5	1.7	3.2	白石川(柴田町)	0.3	0.6	0.9
地下水	名取市	120	670	790	岩沼市	1.1	2.4	3.5

#### 3 当該井戸の状況確認等（実施時期：令和 3 年度）

（1）井戸の状況

ア 飲用利用なし

イ 半径 500m に飲用井戸がなく、上水道敷設済であることを確認

ウ 深度 3～4 m の浅井戸

➡ ヒトへの健康影響について蓋然性は著しく低いと考えられる

（2）対応内容

ア 井戸所有者に対する PFOS 及び PFOA の特性の説明、使用状況の確認、飲用を控えるよう再度助言等を実施

イ 名取市役所へ情報提供